

# 人権が尊重される社会の実現に向けて

問／人権庶務課 内2362 ☎463-1738

「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。(後略)」

(世界人権宣言第1条から)

人権デー 12月10日(月)

人権週間 12月4日(火)～10日(月)

世界人権宣言が国際連合総会で採択された昭和23年12月10日を記念して、わが国では、毎年12月4日から10日までを人権週間(県では、人権尊重社会をめざす県民運動強調週間)と定めています。

人権とは、かけがえのない、ひとりの人間として尊重され、幸せに生きる権利であり、誰もが、自由で平等に生きることができる基本的な権利です。

しかし、現実には、差別を受け、悩み苦しんでいる人々がいます。

差別をなくすためには、自分自身の心の中に差別を生み出す「偏見」、あるいは「差別心」がないかを見つめ直し、自分の権利を主張するばかりではなく、思いやりの精神を忘れずに、他人の人権も尊重し、お互いに相手の立場を考えて、豊かな人間関係をつくるのが大切です。

人権文集「たいよう」は、学校における人権教育の推進のために、市内各小・中学校の児童生徒が書いた人権に関する作文の中から、一部をまとめたものです。その中の小学校6年生がつづった「仲間外れ」をご紹介します。

## 「仲間外れ」

小学校6年生

「ねえ、今日遊べる。」そのころ、同じクラスで仲良かったAちゃんが声をかけてきた。

「うん。遊べるよ。」「他にもだれかさそおうよ。でも、Bちゃんは入れないでね。」

えっ、どうして。私はそう思った。でも、少し気の強いAちゃんに私は自分の気持ちを言えず、

「うん。わかった。」と答えていた。その時むねがチクッと痛んだ。

Aちゃんは、かげでは悪口を言っていたけれど、Bちゃんの前では、普通に話していた。私はそういうAちゃんになにも言えない、Bちゃんを助けてあげられない。そう考えると、くやしくて、自分に腹がたってきた。

そうして、そのまま次の学年になった。新しい友達もできて、毎日が楽しかった。そうして月日がたつうちに、Bちゃんの事をあまり考えなくなってしまった。

ある日のこと。お母さんがとつ然言った。「Bちゃんと仲良くしてる。」少しドキッとした。

「どうして。」「一学期はよく遊んでたのに、と中からあまり遊ばなくなったから、なにかあったの。」

「実はね……。」今までのことを正直に全部話した。もちろん怒られた。

「あなたはBちゃんのこと好きでも、Bちゃんから見たら、あなたもいっしょに仲間外れしてるように見えるんだからね。Bちゃんの気持ちも考えなさい。」

Bちゃんの気持ちを、こんなにいっしょうけん命考えたのは、初めてだった。考えていくうちに、涙がポロッとこぼれた。私はこの時、やっとBちゃんの本当の気持ちが分かった気がする。

「学校であったら声かけなね。」「うん。」

それから私は、Bちゃんに声をかけた。Bちゃんはうれしそうにニコリした。こっちまでうれしくなってきた。ごめんねBちゃん。

それから私は、このような失敗をくり返さないようにしようと思った。相手にしっかり自分の気持ちを伝えなきゃ何も変わらない。困っている子がいたら絶対に助けてあげよう。友達は大切だから。

(人権文集「たいよう」平成24年3月発行第29集より)

## 人権・同和問題を考える「県民の集い」

日時／12月1日(土) 午前9時30分～午後3時

会場／埼玉県熊谷会館(熊谷市末広3-9-2)

内容／・舞台発表(各種文化活動の成果発表)

・講演 山本 コータローさん(歌手・白鷗大学教授)

「人間らしくイキキと～違いを尊重しあう社会へ～」

・アトラクション

ザ・ニューズペーパー～番外編～(コント集団)

「ヒューマンコントライブ」

・その他(展示発表・人権相談等)

※入場無料・事前申込不要・先着順

問／埼玉県人権推進課 ☎048-830-2258

## 第64回 人権週間行事

日時／12月8日(土) 午後1時～

会場／さいたま市産業文化センター

(さいたま市中央区落合5-4-3)

内容／

第1部 午後1時～2時40分 平成24年度全国中学生人権作文コンテスト埼玉県大会表彰式

第2部 午後3時～4時30分  
講演 島筒 英夫さん(ピアニスト・作曲家)  
「生きるすばらしさ～ピアノ弾き語り&トーク～」

※すべて入場無料・先着300人

問／さいたま市方法務局人権擁護課 ☎048-859-3507